

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-278583

(P2002-278583A)

(43) 公開日 平成14年9月27日 (2002.9.27)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
G 1 0 L 15/10		A 0 1 K 29/00	5 B 0 9 1
A 0 1 K 29/00		G 0 6 F 3/16	3 3 0 C 5 D 0 1 5
G 0 6 F 3/16	3 3 0		3 4 0 F
	3 4 0	17/28	Z
17/28		G 1 0 L 3/00	5 3 1 N

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2001-120381(P2001-120381)

(22) 出願日 平成13年3月14日(2001.3.14)

(71) 出願人 301001041

上野 照夫

東京都青梅市根ヶ布1丁目428番地19

(72) 発明者 上野 照夫

東京都青梅市根ヶ布一丁目428番地19

Fターム(参考) 5B091 CB12 CB32 EA00

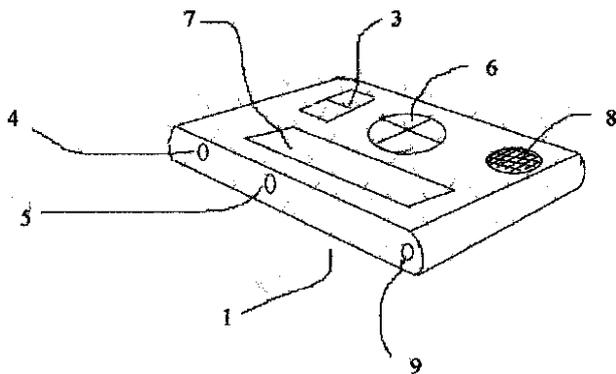
5D015 AA06

(54) 【発明の名称】 ペットの鳴き方の違いによる翻訳装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 飼い主側と犬側の二つに分けたケースの機能により、ペット、主に犬の鳴き方の違いによる、犬の気持ちを、文字や漫画チックな犬の絵、音声によって飼い主に伝える物であり、特に、耳の不自由な障害者の人には、バイブレータの振動により、犬の鳴いた事を知らせると同時に、文字又は漫画で、犬の感情を理解でき、犬を飼う喜びを与える物である、

【解決手段】 (イ) 犬の鳴き声を電波に変換する装置を内蔵した犬側ケースを、本体裏側に設けられた犬の首輪のベルト通しで首輪につけ、電波に変換された犬の声を飼い主側ケース1に向け発信させる、(ロ) 飼い主側のケース1に入力された電波を集積回路等を利用した変換装置などにより、鳴き方の違いによる犬の感情を、文字や漫画、音声として変換し、変換された文字や漫画、音声は液晶画面とスピーカーより出力され、それを目で見たり耳で聞いたりして、犬とのコミュニケーションを図る、



【特許請求の範囲】

【請求項1】(イ) 犬の鳴き声を電波に変換する装置と、この電波に変換された犬の鳴き声を発信する装置を内蔵した犬側ケース(2)を、犬に付ける、(ロ) 電波に変換された犬の鳴き声を受信する装置と、鳴き方の違いによる犬の感情を集積回路等を利用し、人の文字や漫画や音声に変換する装置と、変換された人の文字や漫画や音声を液晶画面やスピーカーより出力する装置を内蔵した、犬側ケース(1)を飼い主が所持、携帯する、(ハ) 犬側ケース(2)の外部に、リモコン受信部、電波送信部、集音マイク、を設ける、(ニ) 飼い主側ケース(1)の外部に、リモコン送信部、電波受信部、リモコン転送及び電源スイッチ、機能切り替え及び音量調節スイッチ、スピーカー、液晶画面、イヤホン差込口、を設ける、(ホ) 飼い主側ケース(1)の内部に、バイブレーション機能を内蔵する、以上の構成よりなる、犬の首につける犬側ケースと、飼い主が、所持携帯する飼い主側ケースとに分けて使用することを特徴とする、ペットの鳴き方の違いによる翻訳装置である。

【発明の詳細な説明】

【0001】[発明の属する技術分野]この発明は、ペット、主に犬の鳴き方の違いによる犬の気持ちを文字や音声によって飼い主に伝える物で特に、耳の不自由な障害者には、バイブレーションの振動により、犬の鳴いた事を知らせると同時に、文字や漫画チックな犬の絵で、犬の感情を理解する為の物であり、耳の不自由な人に犬を飼う喜びを与える物である、

【0002】[従来の技術]従来より、ビデオカメラで映し出す犬の動作や行動、音声を、又、音声だけを、言葉あるいはディスプレイで表示する事を特徴とする動物等の意思翻訳方法が発明出願されていた、特開平10-003479

【0003】[発明が解決しようとする課題]これには次のような欠点があった、

1 飼い主側に設置するビデオカメラやマイクで動物の声を人の声に変換するには、限定された飼育環境、例えば、常時鎖でつないだ飼育、檻の中、柵の中、などに限られる、

2 広い飼育環境でこれらを使用するには、飼い主がビデオカメラやマイクを常時手に持つか、又は、遠隔操作などにより、やはり常時操作する必要がある、

3 従って、これらを使用する場所はペットショップ、屋内でも柵や檻の中などのように限定された場所に限られる、屋外で飼育し、窓などを締め切っている場合や、1階と2階などのように、飼い主と犬が離れている場合、犬の鳴き声は聞こえないか、聞こえてもその声は小さく、飼い主側の固定されているマイクでは動物の声を入力できない、更に、耳の不自由な障害者にとっては、犬が、どのような鳴き方をしているか、何を言っているのか分からず、深いコミュニケーションがとれずにい

る、本発明は、以上の欠点を解決するためになされたものである。

【0004】[課題を解決するための手段]

(イ) 犬の鳴き声を電波に変換する装置と、この電波に変換された犬の鳴き声を発信する装置を内蔵した犬側ケース(2)を、本体裏側に設けられた犬の首輪のベルト通し(13)で首輪につけ、電波に変換された犬の声を飼い主側ケース(1)に向け発信させる、(ロ) 飼い主側ケース(1)に入力された電波を集積回路等を利用した変換装置などにより鳴き方の違いによる犬の感情を文字や漫画、音声として変換する、(ハ) 変換された文字と漫画と音声は、液晶画面(7)と、スピーカー(8)より出力される、(ニ) 飼い主側ケース(1)の内部にバイブレーション機能を設ける、(ホ) 飼い主側ケース(1)の前面にイヤホンの差込口(9)、受信部(5)、リモコン送信部(4)、を設け、上面にリモコン転送及び電源スイッチ(3)、機能切り替え及び音量調節スイッチ(6)、液晶画面(7)、スピーカー(8)、などを設ける、(ヘ) 犬側のケース(2)の前面にリモコン受信部(10)、集音マイク(11)、送信部(12)、を設け、裏面に犬の首輪のベルト通し(13)、などを設ける、以上の構成よりなるペットの鳴き方の違いによる翻訳装置である。

【0005】[発明の実施の形態]以下、本発明の実施の形態を説明する、飼い主側ケース(1)の前面には、

犬側ケース(2)に備わっている機能を起動させるための、リモコン送信部(4)犬の声に変換された電波を受信するための、受信部(5)犬が主人の声と人工音声とによる混乱を防ぐための、イヤホン差込口(9)などを設ける、又、上面には、文字と音声、漫画と音声、文字のみ、漫画のみ、の設定と、音量調節ができる機能切り替え及び音量調節スイッチ(6)犬の気持ちが文字又は、漫画として映し出される、液晶画面(7)犬の気持ちが音声として出力されるスピーカー(8)リモコン送信、及び、飼い主側のケース(1)の各機能を起動させるための、リモコン転送及び電源スイッチ(3)が設けられている、又、飼い主側ケース(1)の内部には、集積回路等を利用した変換装置などが内蔵され、電波に変換された犬の声を犬の感情別に、文字や漫画や音声として変換し、液晶画面(7)に文字や漫画として映し出すと同時にスピーカー(8)より音声も出力させる、更にバイブレーション機能を有し、リモコンの信号を受け、起動した犬側のケース(2)より犬の鳴き声に変換され発信された電波により、設定された時間だけ振動し、飼い主に犬の鳴いた事を知らせる、又、バッテリー収納部を有する、犬側のケース(2)の前面には、飼い主側のケース(1)より送信されたリモコン信号を受け各装置を起動させるための、リモコン受信部(10)と、鳴いた犬の声を集める集音マイク(11)更に、電波に変換された犬の声を発信するための、送信部(12)を、設け

10

20

30

40

50

る、裏面には、犬の首輪に通す、犬の首輪のベルト通し（13）を設ける、又、バッテリー収納部を有する、以上各装置を起動するには、バッテリーによってなされる、本発明は以上の構成よりなり、これを使用するには、（イ） 飼い主側ケースのリモコン転送及び電源スイッチを押し、飼い主側ケース本体を起動させる、（ロ） 飼い主側ケースの、機能切り替え及び音量調節スイッチで、文字と音声、漫画と音声、文字のみ、のどちらかを選択する、文字と音声、漫画と音声、を選択した場合は、音声の出力を調節しておく、（ハ） 飼い主側ケースのリモコン送信部を、犬側ケースのリモコン受信部に向け、リモコン送信及び電源スイッチを押し、犬側ケースを起動させる、（ニ） 犬側ケースの集音マイクより入った犬の声は、犬側ケース内部の変換装置により電波に変換され、送信部より送信される、犬側ケースより発信された電波は飼い主側ケースの受信部より入り、飼い主側ケース本体をパイプレータ機能により振動させ、犬の飼い主に犬の鳴いた事を知らせる、この事は耳の不自由な障害者にとって特に有効な装置である、（ホ） と、同時に設定されたように液晶画面やスピーカーより文字や漫画、音声として出力される、（ヘ） イヤホーンを使用することにより犬にとっては、飼い主側ケースより出る人工音声は聞こえず安心できる、（ト） 本発明を終了するには、飼い主側ケースの、リモコン送信部を、犬側ケースのリモコン受信部に向け、リモコン転送及び電源スイッチを押し、犬側ケースの機能を終了させた後、再び飼い主側ケース本体のリモコン転送及び電源スイッチを押し本体の機能を停止する事によって終了する。犬の鳴き方の違いには、各一定のパターンがあり、鳴き方によってそれぞれ違う意味が込められている、その各鳴き方の違いをグララ化し、音の高低、強弱、長短、などの特徴で分類し、その分類した各データに当てはまる文字や漫画や音声を飼い主側ケース（1）内の記憶装置にインプットしておく、犬側ケース（2）より出力される電波に変換された犬の声は、飼い主側ケース（1）に入力し、集積回路などにより分類され、もともと記憶装置にインプットしてあるデータなどと、照らし合わせ、適当な文字や音声として検出される、この検出された情報を目で見たり耳で聞いたりして、犬とのコミュニケーションをはかる、犬の感情による鳴き方の違いを文字に表すのは難しいが、その一例を以下に記す、

- 1 甘える、（細い声で）クーウーン、クウーン
- 2 怒る、（太く低い声で伸ばして）ウー
- 3 要求する、（細く高い声で伸ばして）クーン、ウーン
- 4 要求が通らず拗ねる、（高音から低音に移行する）クウン、ウーウン、

犬の声の質であるが一般的に小型犬は声が高く大型になるほど声は低くなる、この事から犬の大きさ別に、ある

いは種類別に、飼い主側のケース内に、データをインプットしておき、犬の大きさ、あるいは種類別にスイッチにより切り替えられるようにすると良い、更に、文字を理解できない人には漫画化した絵を液晶画面に映し出す、本発明の各機能をひとつにまとめたペットの鳴き方の違いによる翻訳装置を、犬の首輪に付けた場合、犬の声と変換された人間の声が混ざり合い、飼い主にとって非常に聞きずらくなるとともに、犬にとっては自分の声と同時に人間の声が聞こえてくるため、鳴くたびに恐怖を感じ極度のノイローゼになる事が予想される、又、本発明の各機能をひとつにまとめたペットの鳴き方の違いによる翻訳装置を、犬の飼い主が持つ場合、犬の鳴き方の違いの中には大きく吠えるだけではなく上記のような、甘える、怒る、要求する、拗ねる、のように比較的音量の少ない鳴き方をする物であり、飼い主と犬が少しでも離れると飼い主側のケースでは犬の声を拾えなくなる、従って本発明は飼い主側のケースと犬側ケースを別々にした、尚、犬側ケースを犬に付ける方法として色々考えられるが、本発明の主旨ではない、従って、都合上、図3のような構造にした。

【0006】 [発明の効果] 本発明を使用することによって、耳の不自由な障害者の人も、犬の鳴き声を文字によって確認でき、犬の気持ちが良く理解できるようになり、深いコミュニケーションを図ることができる、又、冬の寒い時期に屋外で犬を飼っている場合、窓などを締め切っているときでも、文字や音声で犬の気持ちを知ることができる、飼育経験の浅い人でも、文字や音声で犬の気持ちを知ることができ、鳴き方の違いによる犬の感情を、早く学習できるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の、犬の飼い主側のケースの斜視図である、

【図2】 本発明の、イヤホーンを使っている図である、

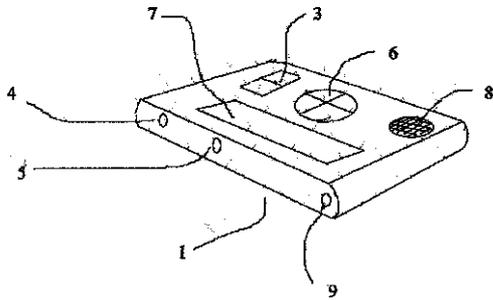
【図3】 本発明の、犬側のケースの斜視図である、

【図4】 本発明を、犬の首輪に付けた図である、

【符号の説明】

- 1 飼い主側ケース
- 2 犬側ケース
- 3 リモコン転送及び電源スイッチ
- 4 リモコン送信部
- 5 受信部
- 6 機能切り替え及び音量調節スイッチ
- 7 液晶画面
- 8 スピーカー
- 9 イヤホーン差込口
- 10 リモコン受信部
- 11 集音マイク
- 12 送信部
- 13 犬の首輪のベルト通し

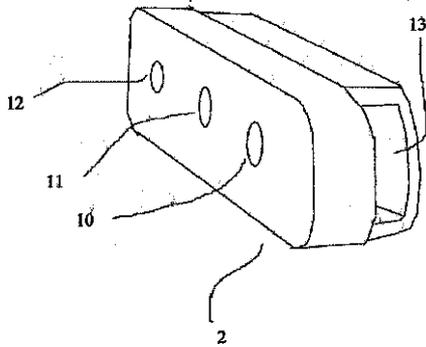
【図1】



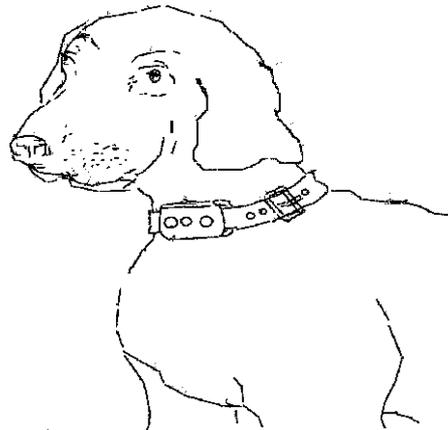
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷
G10L 15/00

識別記号

FI
G10L 3/00

テ-マコード(参考)
551C